

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：若手研究（B）
研究期間：2006 ～ 2008
課題番号：18730315
研究課題名（和文） 「東京国と地方国」の亀裂と連携のガバナンスモデル探求
研究課題名（英文） Exploring Governance Model between Tokyo Metropolis and Peripheral Japan
研究代表者 中澤 秀雄（NAKAZAWA HIDEO）
千葉大学・文学部・准教授
研究者番号：20326523

研究成果の概要：

本課題は、課題番号 15730251（平成 15-17 年度）からの継続であると同時に、その成果を受けて浮上した新たな研究課題に向けた展開可能性を探るための探索的・準備的なものと位置づけられている。出発点は、書籍『住民投票運動とローカルレジーム』にまとめた新潟県巻町・柏崎市（地方国）と、首都東京（東京国）の間に横たわる亀裂状況であった。この亀裂状況を実証したうえで、どうすれば連携に進めるのか模索するという「亀裂から連携へ」という二段階の研究展開を想定していた。しかし実際には、北海道の旧産炭地および南ウェールズの事例と出会う中で、一足飛びに「連携」の問題を考えることとなった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,200,000	0	1,200,000
2007年度	1,300,000	0	1,300,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,600,000	330,000	3,930,000

研究分野： 社会科学

科研費の分科・細目： 社会学・社会学

キーワード： 地域社会学

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は平成15年度から17年度にかけて、「『リスク社会』における地域情報空間の配置と亀裂に関する比較研究」というタイトルで科学研究費（若手（B））を受けているが（課題番号15730251）、平成18年度から開始された本課題はその成果を踏まえて、新たな展開を確立するための基礎作業と位置づけられている。先述の15730251の実績報告書では、さらなる

研究展開の方向性を二つ示唆した。A. 東京圏内、あるいは東京圏と非東京圏の亀裂の状況を、より総合的に明らかにすること。B. その亀裂状況をこえて、持続可能な自治のモデルを探求していくこと、説得的な具体例を構築していくこと、である。

とりわけ、当初念頭にあったのは、15730251 で中心的な調査地とし、書籍『住民投票運動とローカルレジーム』にまとめた

新潟県巻町・柏崎市と東京の間に横たわる亀裂状況であった。この亀裂状況を実証したうえで、どうすれば連携を進めるのかを模索するという「亀裂から連携へ」という二段階の研究課題を想定していた。しかし実際には、新潟以外にも北海道の旧産炭地の事例と出会うことになり、亀裂の問題を理論的に深めながらも、事例研究としては一足飛びに「連携」の問題を考えざるを得なくなった。本課題の申請当初から、海外の事例収集は念頭にあったが、平成19年度から20年度にかけては英国を拠点に欧州の取り組みを調査することとなった。その結果、南ウェールズ地域の事例に注目すべき連携モデルがあることを発見するに至った。その詳細については以下で縷々述べていくこととする。

2. 研究の目的

三年間にわたる本課題は、地域間比較の視点のもとに持続可能な地域自治を探求する準備作業と位置づけられている。目的の第一は、東京圏内あるいは東京圏と非東京圏の亀裂の状況を、より総合的に明らかにすることであった。第二の目的は、その亀裂状況をこえて、持続可能な自治のモデル（ビジネスモデルならぬガバナンスモデル）を国内外の事例を参考にして探求していくことである。研究期間の3年間を通じて、本報告書の1.で述べたように英国を中心とする各地の事例収集につとめ、そのなかで南ウェールズ地域の旧産炭地の事例が注目すべきものであることを発見した。この事例と日本の旧産炭地の事例とをブリッジすることを主たる課題とし、平成21年度には新たな研究チームを構成して科学研究費基盤（A）に応募している。また日本を代表する旧産炭地である常磐地方や空知地域において、このチームによる現地調査研修も実施した。すなわち、本課題を通じて、「持続可能な地域自治」を探求する本格的な展開への「準備作業」が名実ともに完了したといつてよい。

3. 研究の方法

1.で触れたように、当初の方法論は「亀裂」を実証的に深め、「連携」については事例を収集するというものであった。前者については、結果としては理論的整備が中心となり、いくつかの論文に見解を整理するに止まった。一方、後者に関しては国内外の豊富な事例を蓄積することができ、今後の大型研究プロジェクトにつながる成果を挙げることができた。以上の経緯を振り返ると、本課題における研究方法は、かなり探索的なものであったといえる。ただし、本課題期間において実施されるのは、『住民投票運動とローカルレジーム』をまとめたのち、次の展開に向けた準備作業であることは当初から分かっていたことであり、研究計画書にもそのことは強調してある。「若手研究」という研究種目の性格からいって、一定程度の試行錯誤が許容されなければ、研究の発展はありえないであろう。

4. 研究成果

本報告書の1.に述べたように、当初持っていた展開可能性は二つあった。A. 東京圏内、あるいは東京圏と非東京圏の亀裂の状況を、より総合的に明らかにすること。B. その亀裂状況をこえて、持続可能な自治のモデルを探求していくこと、説得的な具体例を構築していくこと、である。

このうちAについては東京大学出版会『講座社会学3 村落と地域』所収論文に地域社会学の成果を踏まえた状況の素描を行ったほか、国際社会学会RC21バンクーバー会議（2007/8）、英国社会学会東ロンドン大学会議（2007/4）でも東京圏内の状況について報告した。ここ数年の社会状況の変化のなかで「地域格差」と言われるようになった問題系と重なり、これらの考察を踏まえる形で平成21年に『法学新報』に発表した論文において、一応のまとめを行った。

一方、Bの方向性については、2006年度にケント大学を拠点にして英国での準備的地域調査を実施した結果、南ウェールズの旧産炭地域に新たなモデルを発見し、この地域と日本側の取り組みとを架橋してゆけそうだとの見通し

を得た。また平成21年度夏にも改めて本課題の経費により当地を訪問し、スウォンジー大学の研究者・アーキビストなど関係者との信頼関係を築くことができた。本課題とは別に得た Daiwa Anglo-Japan 基金の助成をもとに、2009年度には日本と英国において旧産炭地の再生に関するシンポジウムを開催することになっており、これは私の考える「連携のガバナンスモデル」の一つの実践である。

この関係を国内で苦闘する諸地域の「持続可能な自治」の理論と実践に活かしていくことが、新たな研究方針となろう。こうしてガバナンスモデルの軸となる事例を発見したことにより、「新たな展開への準備作業」と位置づけられた三年間の本課題は、所期の目的を達成することができそうである。本課題による探求と研究の成果は、すでに上述したような多くの研究会・学会等で報告し、論文や書籍原稿のかたちで発表もしているが（本報告巻末にあるように、合計で8件にのぼる）、こうした内容をさらに深めて、まとまった書籍として出版できるよう努力したい。

また平成21年度には、以上のような展開に興味を持ちそうな国内の研究者と接触し、新たな研究組織として「旧産炭地研究会」を形成することもできた。この研究会を母体として、新たに科学研究費基盤（A）への応募をはじめたところである。したがって本課題における準備は新たな大型研究プロジェクトへと実を結びつつある。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

① 中澤秀雄・西城戸誠・大國充彦・新國三千代・祐成保志・新藤慶・小内純子・高橋徹, 2009. 「社会調査のアーカイブズ学」の必要性—札幌学院大学SORDが取り組んだ「夕張調査資料集成」作成経験からの提言」『理論と方法』（日本数理社会学会）45 卷（印刷中）〔査読有〕

② 中澤秀雄, 2009 「首都と周辺の政治社会学序説」『法学新報（中央大学法学会）』115（9・10）：pp.561-580. 〔査読無〕

③ Hideo Nakazawa, 2006, "Between the Global Environmental Regime and Local Sustainability: A local review of inclusion, failure and reinventing of the environmental governance" *International Journal of Japanese Sociology* 15: 69-82. 〔査読有〕

〔学会発表〕（計 2 件）

① August 2007 Hideo Nakazawa "Tokyo's 'Urban Regeneration' as the final phase of Space Differentiation", International Sociological Association Research Committee 21 (Urban and Regional Development) 2007 Annual Conference (University of British Columbia, Vancouver, Canada)

② April 2007 Hideo Nakazawa "The inner city urban regeneration in Tokyo compared to London: growth coalition, gentrification and potential impact to inequality?" British Sociological Association Annual Conference (University of East London, London)

〔図書〕（計 2 件）

① 2007 年 蓮見音彦編『講座社会学 3 村落と地域』東京大学出版会. [978-4-13-055103-8] (第6章「地方自治体『構造分析』の系譜と課題」pp.169-205を執筆)

② 2006 年 町村敬志編『地域社会学講座 第1巻』東信堂. (第2部4「地域社会の自治と再創造」pp.157-172.を執筆)

〔その他〕

① 中澤秀雄 2008 「環境・景観まちづくりの諸相」似田貝香門編『まちづくりの百科事典』丸善, pp.361-369.

② 中澤秀雄 2006 「コミュニティの生活の構造を聴くこと社会学・私論」桜井厚編『コミュニティメディアにおける経験と語り（千葉大学社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書）』, pp.25-47.

6. 研究組織

(1)研究代表者

中澤 秀雄 (NAKAZAWA HIDEO)

千葉大学・文学部・准教授

研究者番号: 20326523

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし